

⑯ 日本国特許庁 (JP)

⑰ 特許出願公開

⑱ 公開特許公報 (A)

平3-111007

⑲ Int. Cl. 5

A 47 G 25/12

識別記号

府内整理番号

B 7137-3B

⑳ 公開 平成3年(1991)5月10日

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全8頁)

㉑ 発明の名称 集合傘立て

㉒ 特 願 平1-248755

㉓ 出 願 平1(1989)9月25日

㉔ 発 明 者 根 本 進 神奈川県横浜市保土ヶ谷区天王町1-22-12 YBS天王  
町コーポ301号

㉕ 出 願 人 根 本 進 神奈川県横浜市保土ヶ谷区天王町1-22-12 YBS天王  
町コーポ301号

明細書

1. 発明の名称

集合傘立て

2. 特許請求の範囲

(1) 傘立て本体に設けられたバーに、傘の柄の部分を保持する複数の傘ホルダーが所定の間隔で取り付けられた集合傘立てにおいて、

傘ホルダーを、バーの略長手方向に沿って移動自在に取り付けたことを特徴とする集合傘立て。

(2) 傘立て本体に設けられて所定の間隔で並ぶ複数のバーに、傘の柄の部分を保持する傘ホルダーが取り付けられた集合傘立てにおいて、

バーを、互いに近接、離間する方向に移動自在に設けたことを特徴とする集合傘立て。

3. 発明の詳細な説明

[発明の属する技術分野]

この発明は、多段の傘を保持する集合傘立てに関するものである。

[従来の技術]

従来、この種の集合傘立ては、例えば第17図および第18図のように、棒型の傘立て本体1に複数本のバー2を架け渡して固定し、そしてバー2のそれぞれに、複数の傘ホルダー3を所定の間隔をおいて固定した構成となっている。傘ホルダー3は傘Aの柄やその下の部分を保持するものであり、本例の場合は、第18図のようにヒンジ3との部分を中心として開閉し、そして閉じたときに傘Aの柄の部分を保持して、そのままロックできるようになっている。

このような集合傘立てでは、多数の傘Aをスペース的に効率よく収納することができてきわめて便利である。

[この発明が解決しようとする課題]

ところで、このような集合傘立てにあっては、の収納効率をアップしようとした場合には、どうしても多数の傘ホルダー3を狭い間隔で固定することになる。

しかし、傘ホルダー3を固定する間隔を狭くした場合には、収納されている傘A同士が干渉し合

ってしまうため、傘Aの出し入れに際しては、多数の傘Aを横き分けるようにしなければならずきわめて面倒である。しかも、傘ホルダー3の固定間隔をある程度離したとしても、収納されている傘が聞くことによって、傘Aの取り出しは同様に面倒なものとなってしまうという問題がある。

この発明は、このような問題を解決課題とし、傘の収納効率のアップと、傘の出し入れのしやすさと同時に実現する集合傘立てを提供することを目的とする。

#### [課題を解決するための手段]

(1) 第1請求項に記載の集合傘立てでは、

傘立て本体に設けられたバーに、傘の柄の部分を保持する複数の傘ホルダーが所定の間隔で取り付けられた集合傘立てにおいて、

傘ホルダーを、バーの略長手方向に沿って移動自在に取り付けたことを特徴とする。

(2) 第2請求項に記載の集合傘立てでは、

傘立て本体に設けられて所定の間隔で並ぶ複数のバーに、傘の柄の部分を保持する傘ホルダーが

ダ-3の後部の取り付けピン4をスライド自在に取り付けている。ピン4には、そのスライドをスムーズなものとするためのガイドローラ5が回転自在に嵌め付けられている。図中6は補強兼用のカバーであって、バー2の後部に取り付けられている。

このような構成により、傘ホルダー3はバー2の長手方向に沿ってスライド自在となっている。そのため、傘Aの出し入れの際にには、周りの傘Aをどかすように、傘ホルダー3をスライドさせることができる。したがって、傘Aの出し入れが簡単となる。またこのことは、バー2に対して多数の傘ホルダー3の取り付けを可能とすることを意味する。したがって、傘Aの収納効率の向上を図ることができる。

なお、傘ホルダー3は、全てを移動自在としてもよく、また隣接するものの一方を移動自在としてもよい。

第3図および第4図の実施例と、第5図および第6図の実施例は、バー2に対する傘ホルダー3

取り付けられた集合傘立てにおいて、

バーを、互いに近接、離間する方向に移動自在に設けたことを特徴とする。

#### [作用]

この発明の集合傘立ては、傘ホルダー、またはその傘ホルダーが取り付けられるバーを移動自在とすることにより、傘の出し入れの際に、周りの収納傘をどかすように移動させることを可能として、傘の出し入れをきわめて簡単なものとする。

しかも、傘の出し入れに際して傘同士が干渉しなくなることから、傘の収納間隔を縮めることを可能として、収納効率のアップを実現する。

#### [実施例]

以下、この発明の実施例を第1図ないし第16図に基づいて説明する。なお、前述した従来例と同様の部分には同一符号を付して説明を省略する。

第1図および第2図は、第1請求項に記載の発明の一実施例を説明するための図である。

本実施例の場合は、バー2に水平のガイド溝2aを形成し、このガイド溝2aに対して、傘ホル

ダの取り付け方の異なる構成例である。

第3図および第4図の実施例の場合は、バー2の内側に水平方向にスライド自在のスライド体7を備え、このスライド体7に対して、傘ホルダー3の後部の取り付けピン4を取り付けている。スライド体7には、そのスライドをスムーズなものとするためのガイドローラ8が回転自在に取り付けられている。また、ピン4はガイド溝2aを貫通してスライド体7に取り付けられている。このような構成により、傘ホルダー3はバー2の長手方向に沿ってスライド自在となっている。

第5図および第6図の実施例の場合は、バー2の外周にスライド体9をスライド自在に嵌め合わせ、そしてこのスライド体9に対して傘ホルダー3を取り付けている。スライド体9には、そのスライドをスムーズなものとするためのガイドローラ10が回転自在に取り付けられており、またバー2には、ガイドローラ10のスライド範囲を規制するストッパー11(第5図参照)が設けられている。このような構成により、傘ホルダー3は

特開平3-111007(3)

バー2の長手方向に沿ってスライド自在となっている。

第7図ないし第10は、傘ホルダー3のスライドの規制の仕方の異なる例を説明するための図である。

第7図は、傘ホルダー3を左右および中央の3位置に係止する場合の構成例である。本例の場合は、バー2に形成した凹部2bに対して、傘ホルダー3側のポール12を弾性的に嵌め合わせるようになっている。図において、I3はポール12を付勢するスプリグ、I4はスプリグ13を押さえ付けるネジである。

第8図は、傘ホルダー3を自動的に所定の位置に係止する場合の構成例である。本例の場合は、第7図の実施例における中央の凹部2bを略V字状とすることによって、傘ホルダー3が自動的に中央に位置するようになっている。

第9図は、隣接する傘ホルダー3のスライド範囲を重ならせた場合の構成例である。本例の場合は、隣接する水平のガイド溝2aが上下にずれて

アーム部1aには3つのストッパー23が取り付けられており、第12図のように中段のバー2を後方位置P1、中间位置P2、前方位置P3の3位置に係止できるようになっている。

このような構成により、傘Aの出し入れに際しては、中段のバー2を前後にスライドさせることができる。したがって、傘Aの出し入れが簡単となる。またこのことは、バー2に対して多数の傘ホルダー3の取り付けが可能であること、および傘立て本体1に多数のバー2を備えることが可能であることを意味する。したがって、傘Aの収納効率の向上を図ることができる。

なお、バー2は、全てを移動自在としてもよく、また隣接するものの一方を移動自在としてもよい。

第13図は、中段のバー2を前後方向に移動自在とする構成の他の例を説明するための図である。

本例の場合は、傘立て本体1の左右の底部に、ピン24を中心として前後方向に振動する振動アーム25を取り付けて、これら左右の振動アーム25の間に中段のバー2を架け渡している。振動

重なるように形成されていて、傘ホルダー3の個々のスライド範囲が大きく設定されている。

第10図は、複数の傘ホルダー3に関するスライド範囲を共通化した場合の構成例である。本例の場合は、バー2の1つの水平のガイド溝2aに対して、複数の傘ホルダー3のピン4をスライド自在として、傘ホルダー3のスライド範囲をより一層大きなものとしている。

第11図および第12図は、第2請求項に記載の発明の一実施例を説明するための図である。

本実施例の場合は、傘立て本体1に架け渡されている3本のバー2の内、中段のものを前後方向にスライド自在としている。そのため、バー2が架け渡される傘立て本体1の左右のアーム部1aの内部に、前後方向にスライド自在のスライド体21を備え、その左右のスライド体21の間に、中段のバー2を架け渡した構成となっている。スライド体21には、そのスライドをスムーズなものにするためのガイドローラ22(第12図参照)が回転自在に取り付けられている。また、左のア

ーム部25の上端にはガイドピン26が取り付けられており、このガイドピン26は、傘立て本体1のアーム部1aに形成されたガイド溝1bと嵌まり合って、ガイドされている。また、左右の振動アーム25の間に、補強バー27が架け渡されている。

第14図ないし第16図は、前述した第1、第2請求項の発明を複合的に組み合わせた場合の異なる構成例を説明するための図である。

第14図の場合は、傘立て本体1に対して、前後方向に延在する複数のバー2を左右方向に沿ってスライド自在に取り付けると共に、個々のバー2に対して、複数の傘ホルダー3を前後方向にスライド自在に取り付けた構成となっている。

第15図の場合は、傘立て本体1に対して、複数のスライド体28を左右方向に沿ってスライド自在に取り付け、そして個々のスライド体28に対して、前方に延在する複数のバー2の後端部を上下の軸線O1を中心として旋回自在に取り付けると共に、個々のバー2に対して、その長手方向

に沿ってスライド自在の複数の傘ホルダー3を取り付けた構成となっている。

第16図の場合は、傘立て本体1の上部に対して、前方に延在する複数のバー2の後端部を上下の軸線O2を中心として旋回自在に取り付けると共に、個々のバー2に対して、その長手方向に沿ってスライド自在の複数の傘ホルダー3を取り付けた構成となっている。したがって、丁度、本を開くような感じで複数のバー2を旋回させることができる。

#### [発明の効果]

以上説明したように、この発明の集合傘立ては、傘ホルダー、またはその傘ホルダーが取り付けられるバーを移動自在とした構成であるから、傘の出し入れの際に、周りの収納傘をどかすように移動させることができる。したがって、傘の出し入れがきわめて簡単となる。

しかも、傘の出し入れに際して傘同士が干渉しなくなるため、傘の収納間隔を縮めて、収納効率のアップを図ることができる。

斜視図、第12図は第11図の右矢視図である。

第13図は、バーを移動自在に取り付ける場合における取り付け方の他の例を説明するための側面図である。

第14図ないし第16図は、傘ホルダーとバーの両方を移動自在に取り付けた場合における第1、第2、第3の3つの構成例を説明するための斜視図である。

第17図および第18図は従来例を説明するための図であって、第17図は斜視図、第18図は傘ホルダー周辺部の拡大斜視図である。

1 ……傘立て、 2 ……バー、  
3 ……傘ホルダー、 A ……傘。

出願人 根本進

#### 4. 図面の簡単な説明

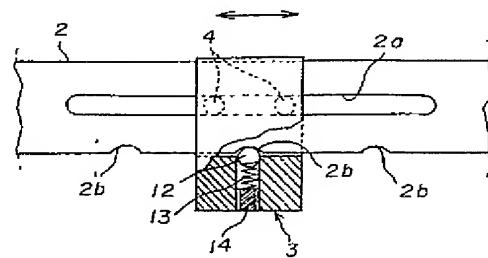
第1図および第2図は、傘ホルダーを移動自在に取り付ける場合におけるこの発明の一実施例を説明するための図であって、第1図は要部の正面図、第2図は第1図のII-II線に沿う断面図である。

第3図と第4図、および第5図と第6図は、傘ホルダーを移動自在に取り付けるための構成の異なる第1、第2の例を説明するための図であって、第3図は第1の例の要部の正面図、第4図は第3図のIV-IV線に沿う断面図、第5図は第2の例の要部の正面図、第6図は第5図のVI-VI線に沿う断面図である。

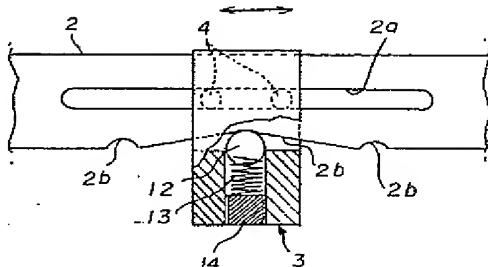
第7図ないし第10図は、それぞれ傘ホルダーを移動自在に取り付ける場合におけるスライドの規制の仕方の異なる第1、第2、第3、第4の例を説明するための要部の正面図である。

第11図および第12図は、バーを移動自在に取り付けた場合におけるこの発明の一実施例を説明するための図であって、第11図は要部の概略

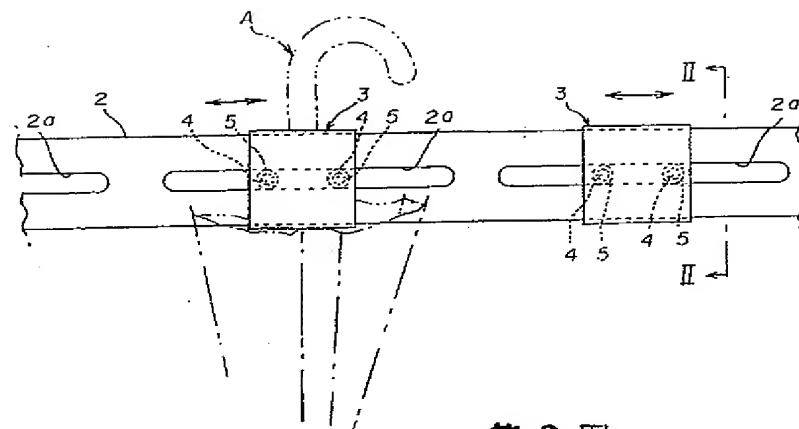
第7図



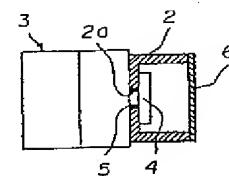
第8図



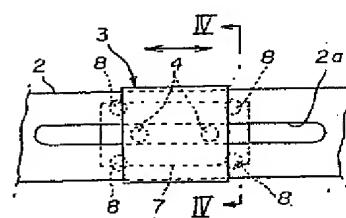
第1図



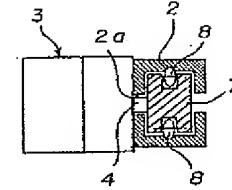
第2図



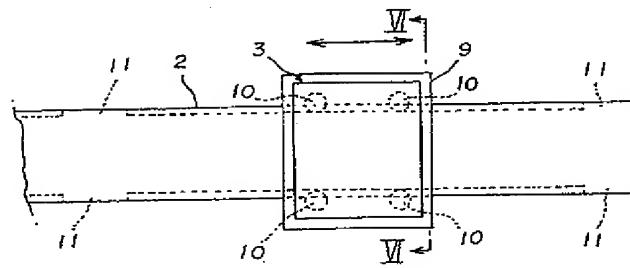
第3図



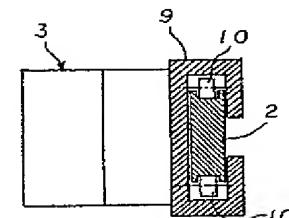
第4図



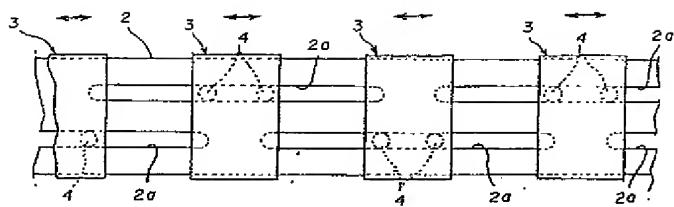
第5図



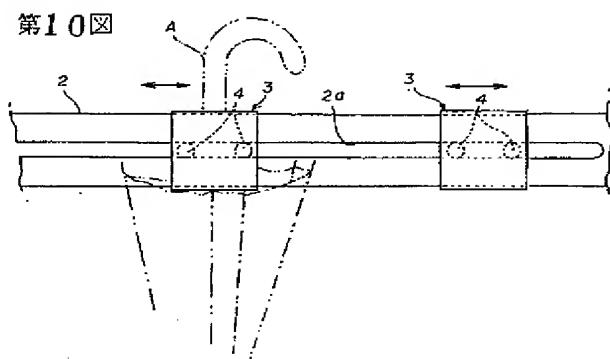
第6図



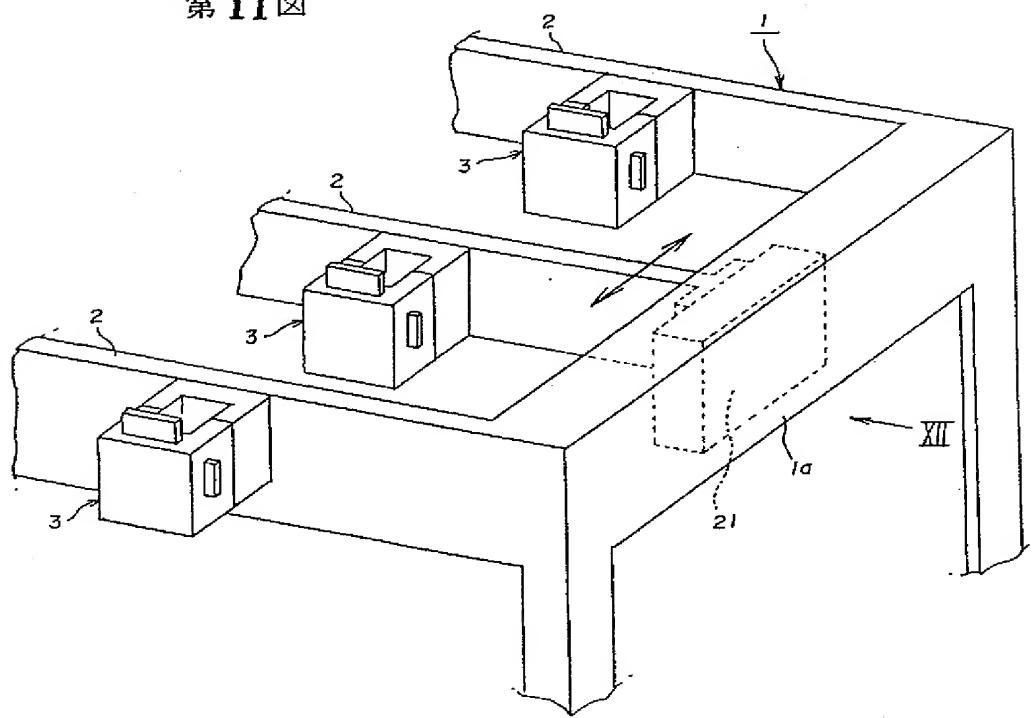
第9図



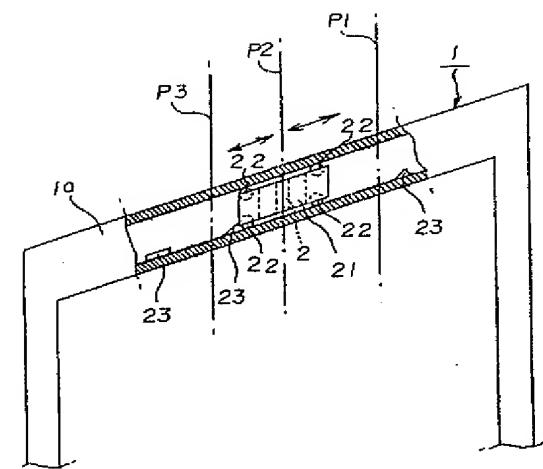
第10図



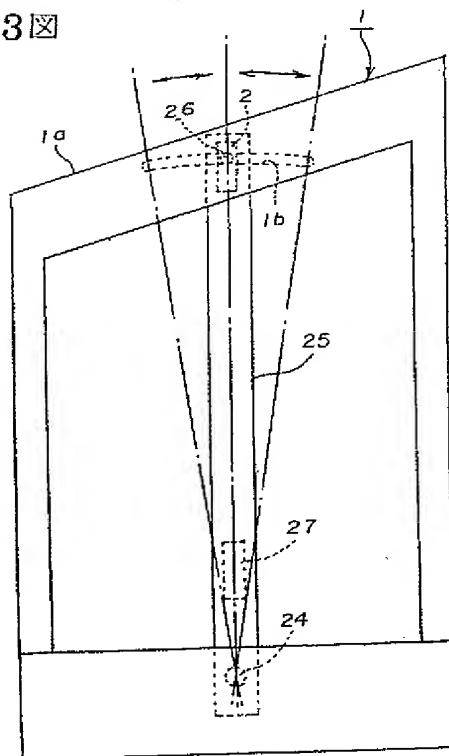
第11図



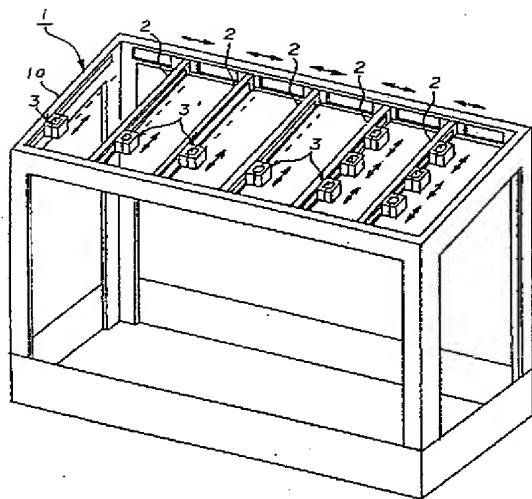
第12図



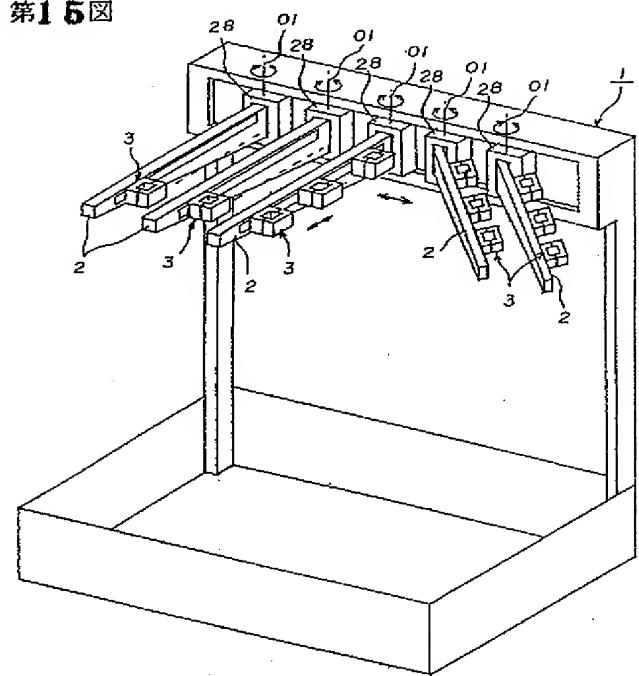
第13図



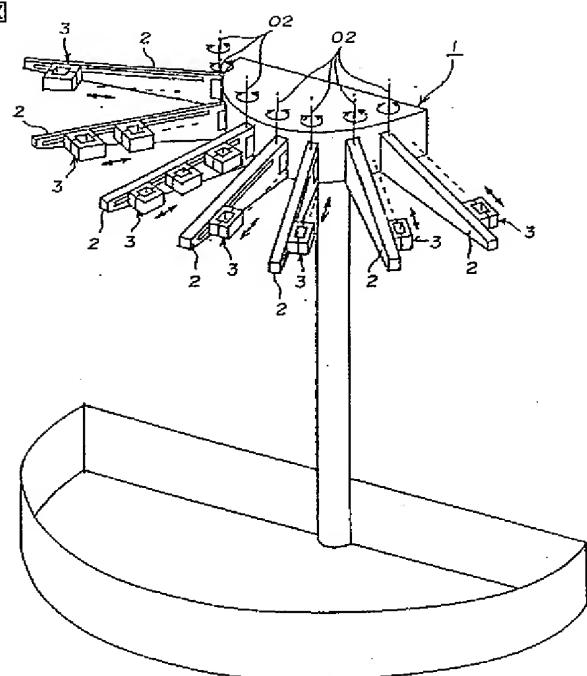
第14図



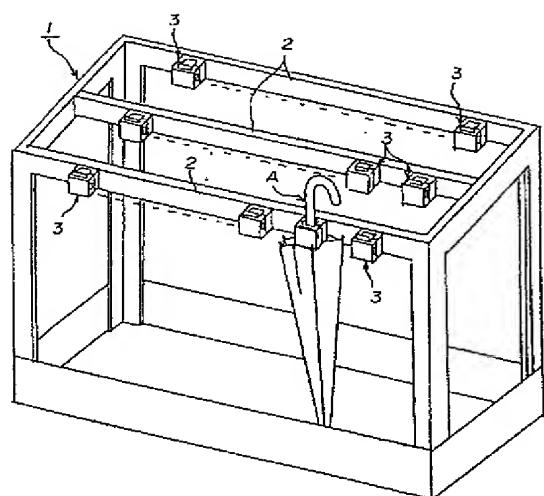
第15図



第16図



第17図



第18図

